

赤潮情報（４）

令和６年７月１８日

各漁業協同組合長 殿

福岡県水産海洋技術センター
豊前海研究所長

７月１８日に全域調査を行った結果、有害プランクトンのカレニア ミキモトイが広範囲で確認されています。また着色域では９，０００細胞を超えている場所があります。

魚介類によってはへい死の恐れがありますので、漁獲物の港内での蓄養は避け、早めの出荷を心がけてください。また変色域付近ではスカッパを閉めて航行するなど、活け間の魚の状態にも注意してください。

<有害プランクトンの状況>

○カレニア ミキモトイの１mlあたりの最大密度は９，０５０細胞でした。

- ・人工島周辺や築上町地先でカレニア ミキモトイの赤潮による着色が認められました。
- ・本種は、海水１mlあたり数千細胞で魚介類に被害を及ぼします。
- ・また、増殖初期は中層で増殖する性質を持っているので、海面からの観察では着色が判別しにくい種類です。

○シャットネラ属の１mlあたりの最大密度は１細胞でした。

- ・門司区沖の表層でのみ確認されました。
- ・減少傾向にありますが、引き続き注意が必要です。

<今後の対応>

○研究所では引き続き調査を実施しますので、今後の情報にご注意下さい。

※漁業被害、海面の着色などがみられましたら、

豊前海研究所(0979-82-2151、担当:恵崎、増田)までご連絡下さい。

漁場調査結果

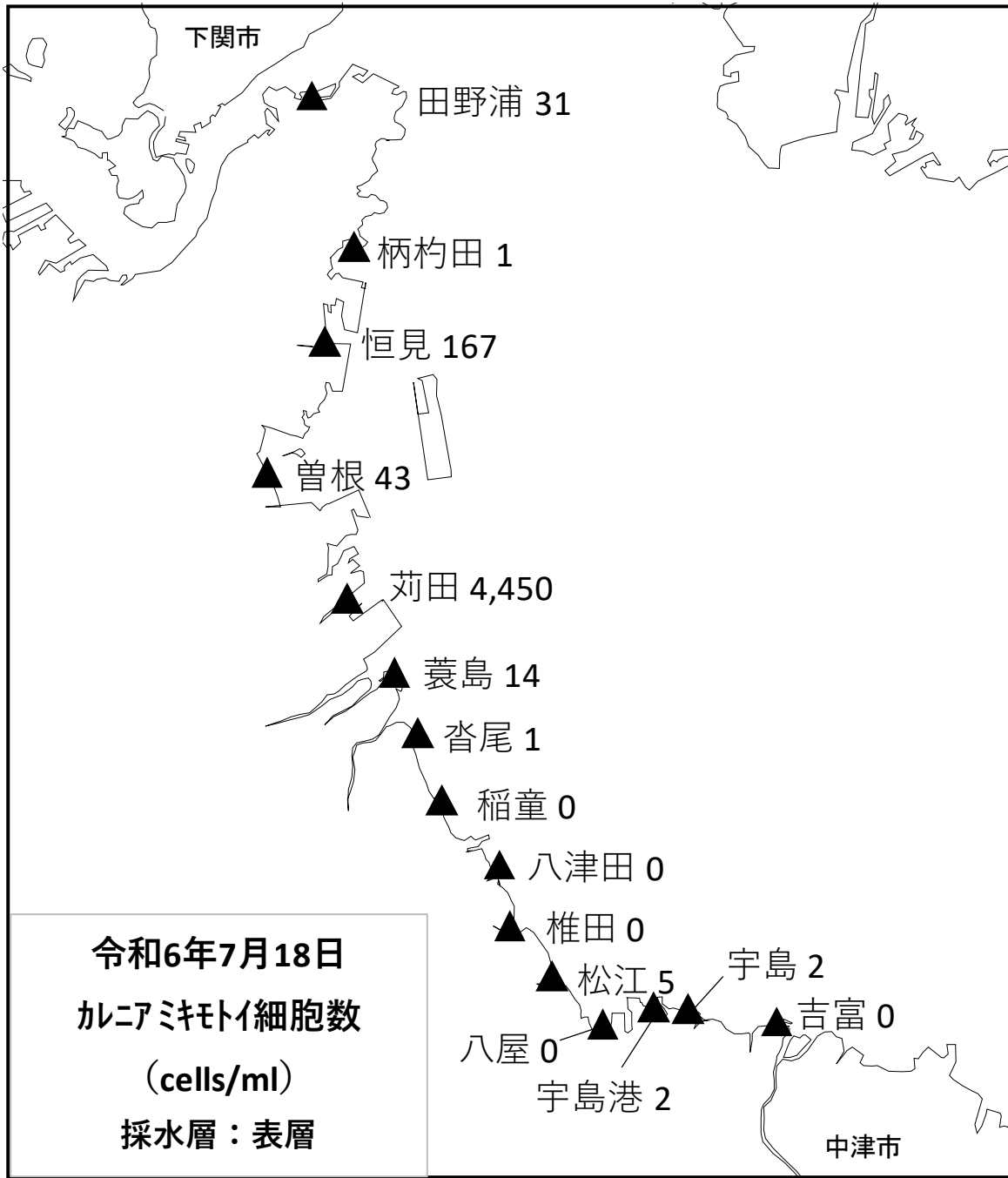


図1 カレニア ミキモトイの漁港域の細胞数

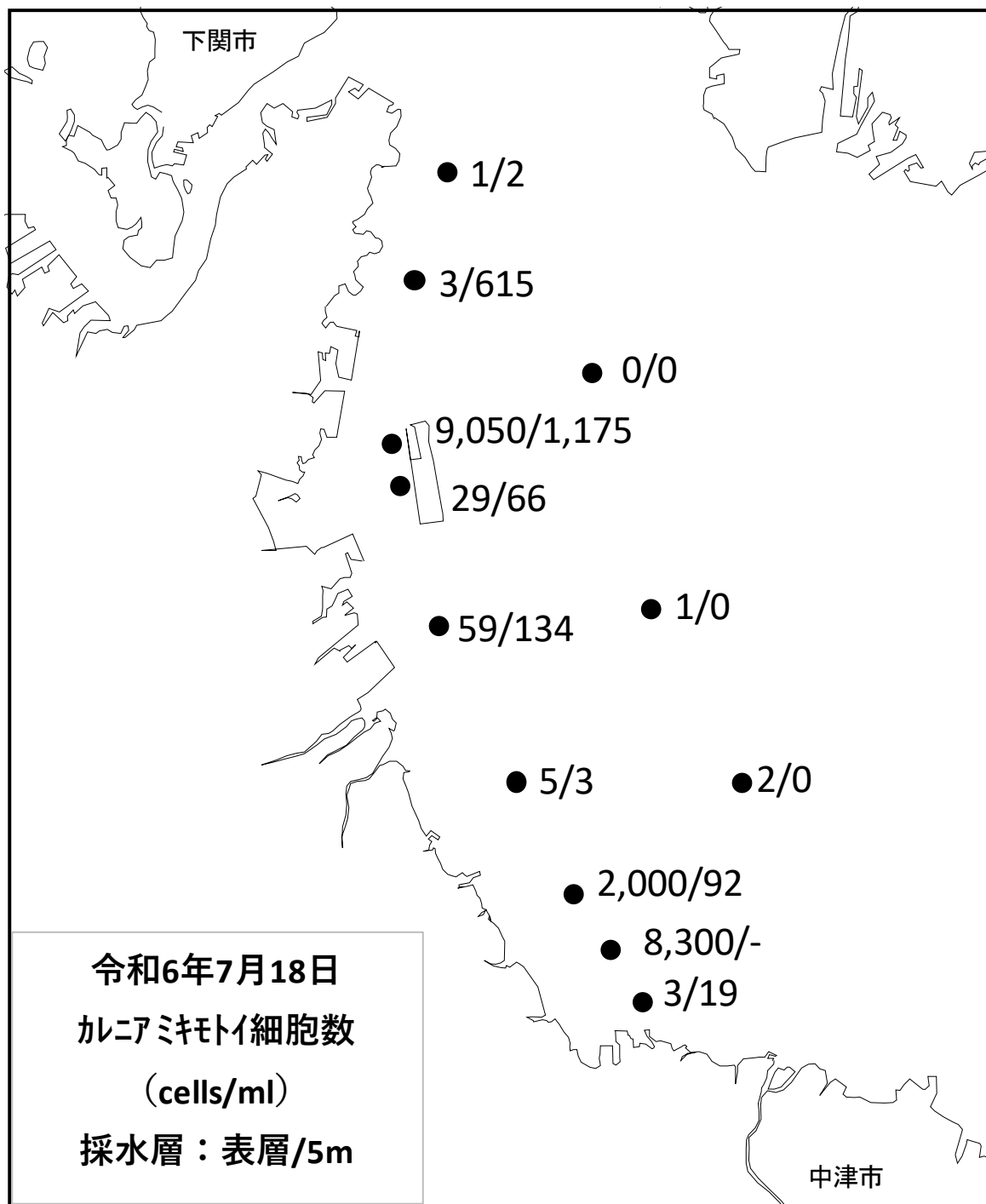


図2 カレニア ミキモトイの沿岸域の細胞数